

はじめに

日本の一般の歯科医師にもインプラント治療が定着しつつあり、また一方ではさまざまな問題が起こっています。これまでの日本の歯科治療では、他院での治療のやり直しをすることが多いのが現状です。補綴物を外して根管治療を行うなど、「歯科治療はその8割がやり直しでは？」と揶揄されることもあります。

従来のインプラント治療は、施術した歯科医院で手術から上部構造の装着、メンテナンスを行うことが通例でしたが、現在では他院で施術したインプラントのメンテナンス、あるいは上部構造の変更をすることも多くなりつつあり、今後増加していくでしょう。

インプラント治療後のメンテナンスでは、歯科衛生士が問題を発見することが多くあります。出血や腫脹などの炎症、清掃器具が入りにくいなどのマイナートラブル、上部構造の緩みや脱落、またインプラント周囲炎などの多くは、メンテナンスを担当する歯科衛生士が第一発見者となって、歯科医師がX線写真などで診断と施術を行うこととなります。

天然歯とは異なり、インプラントのメンテナンス時の問題点は、上部構造の変更という解決法があることが従来の補綴とは異なることであり、この点で歯科衛生士もインプラントの構造に熟知しなければなりません。また、インプラント周囲炎という、現代のエビデンスでは治療が極めて困難な疾患に関しても、治療計画の立案から外科治療、そして補綴治療まで、どの時点で問題があったのかを考察するためにも、メンテナンスに移行する前段階として一連の治療の段階を歯科医師、歯科衛生士、そして歯科技工士がともに熟知しておかなければならないのです。

本書は、このような時代の変遷のなかで、他院で行ったインプラントも含め柔軟に対応しつつメンテナンスを行うためのガイドブックです。メンテナンスに悩む歯科医院のために、そして患者さんのために本書を活用していただければ幸いです。

2014年6月 吉野敏明